8月26日　馳石川県知事の定例会見報道をうけて

2022年8月27日
石川県民主医療機関連合会
会長　中内　義幸

私たち「石川県民主医療機関連合会（略称：石川民医連）」は、コロナ対応協力医療機関である金沢市の城北病院を含め多数の事業所が加盟する医療・介護団体です。

私たちは、8月25日に馳知事に対し「第7波のもとで医療・介護の現場で起きている厳しい実態を把握してほしい、逼迫する中で奮闘するすべての医療・介護事業所へ支援を拡充してほしい」と要請を行いました。

昨日8月26日、馳知事が行った定例会見がテレビ報道されました。それによると馳知事は「医療現場に突出した負担をかけている状況ではない」「コロナ病床に関しては『なんとか回っている』と報告を受けている」と発言されました。

馳知事のこの発言は、医療・介護現場の感覚とはあまりにかけ離れており、受け入れがたいものです。

発熱外来への受診希望者や救急車受け入れをお断りせざるをえない、公表されている病床使用率の数字とは裏腹に重症化したコロナ陽性患者の入院先が見つからず一般病床や介護事業所で治療を継続するなど、医療・介護現場はすでに限界状態にあり、働く医療・介護従事者の身体的・精神的負担は計り知れないものです。様々報道も増えてきている通り、これは私たちの加盟事業所でのみ起きている訳ではなく、多くのコロナ対応協力医療機関、発熱患者等診療・検査医療機関、さらに一般の医療機関や介護事業所の実態です。

コロナ対応はもちろん、通常の医療も含め今後も医療・介護提供体制を維持してこの難局を乗り越えていくためには、県、自治体、保健所、医師会、医療・介護事業所等が、現場の実態にもとづいた施策・対策をそれぞれの役割分担で相互協力・連携し進めていくことが必須と考えます。

馳知事には、コロナ対応に全力を挙げて奮闘する現場の声に耳を傾けて認識を改めていただき、引き続き県民のいのちと健康をまもる先頭に立っていただきたいと考えます。

以上